

平塚市市民総合体育大会のあり方について ～20世紀の競技スポーツから21世紀の生涯スポーツへ～ 提言書 概要

市民総合体育大会のあり方 提言の背景

平塚市では、昭和27年に第1回市民総合体育大会を開催して以来、平成23年度に第60回の節目となる大会を迎える。しかしながら、当初開催してから現在まで社会情勢や市民ニーズの変化から、市民のスポーツ・レクリエーションに対する考え方が大きく変わってきている。第60回大会を向えるにあたり市民総合体育大会を社会情勢及び市民ニーズに合った、よりよい大会にするため、「市民総合体育大会のあり方」について協議、検討した。

市民総合体育大会の現状と課題

当審議会では本大会のあり方について下記の課題について検討した。

第1節 競技方法

- ・地区対抗方式と選手権方式

第2節 競技種目

- ・競技種目の再考
- ・得点方法の公平性

第3節 開催時期

- ・開催日の分散と会場の確保について

第4節 市民のスポーツの祭典としての位置づけ

- ・市民スポーツの祭典について

第5節 その他の事項

- ・参加料の徴収
- ・広報活動
- ・大会名

市民総合体育大会が目指す方向性

本審議会では、検討の結果、市民総合体育大会の目指す方向性について、大会の趣旨である「スポーツを愛好する多くの市民にスポーツ活動の機会を与え、スポーツを通じて健康明朗な心身の育成を図ると共に、地域住民相互の親睦を図り、あわせて市民のスポーツの祭典とする」を重視し、より多くの市民がスポーツに親しみ、地区住民の親睦が図れる大会にすることが好ましいと考えた。

(1) 若者から高齢者まで幅広い世代の市民が参加する大会へ

多くの市民が参加しやすい大会とするために、開催期日や開催方法、種目などを検討する。少子高齢化社会を向かえ、平塚市も例外なく人口に対する高齢者の比率が増加し、高齢者が健康でいきいきと生活することができる社会が求められている。スポーツはその一つ的手段として有効であると考え、高齢

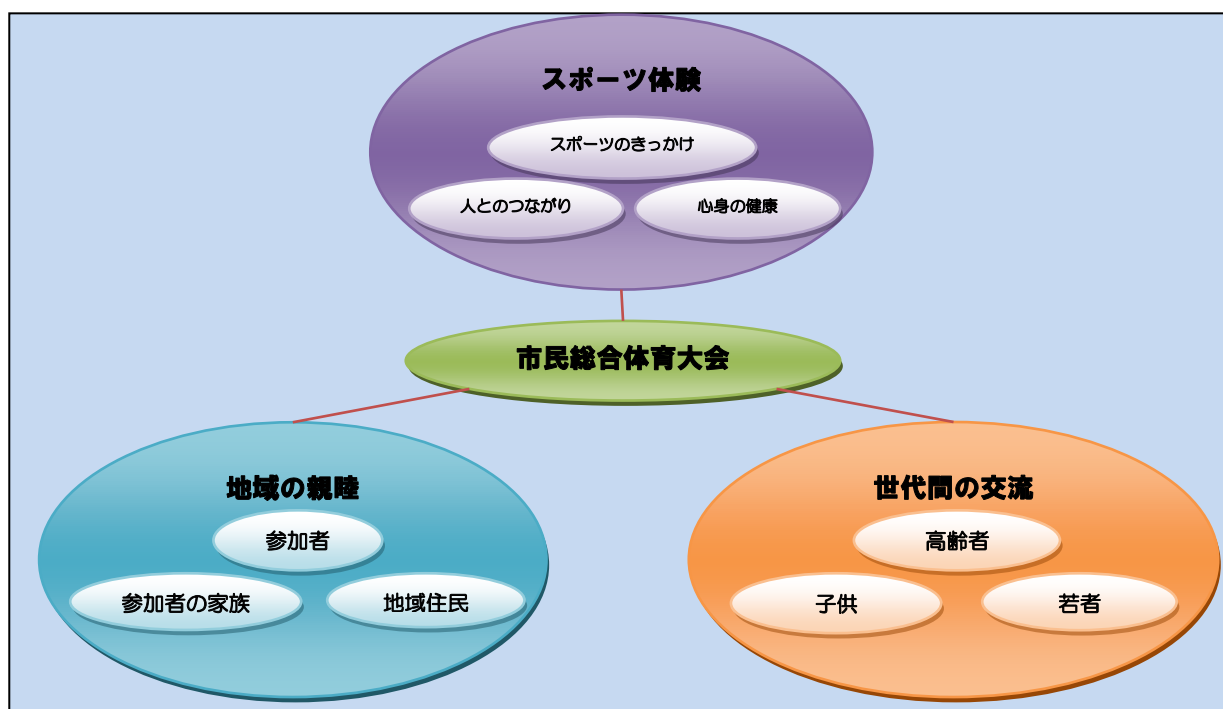
者のスポーツ振興を図るため、高齢者でも気軽に参加できる種目の導入を検討した。

（２）地域及び世代間の親睦が図れる大会へ

地域が1つになり、助け合い、共に楽しむことができるような開催方法を検討する。地域でのつながりが希薄化してきた現代において、スポーツはそれを埋めるのに有効である。スポーツを通して、コミュニティーが図られ、昔のようにつながりのある地域をつくっていく。本大会の存在意義は、市民に密着した大会を開催することであり、地域の絆を深める手段として、確固たる地位を築きたい。

（３）平塚市全体がスポーツの祭典として盛り上がる大会へ

平塚市は他市と比較してスポーツが盛んであり、年間を通して多種多様な大会やイベントが開催されている。本大会が市民に必要とされる大会であるためにもっと市民の関心を惹きつける必要がある。多くのスポーツ大会が実施されている中で、市内の全てのスポーツ大会の総括的な大会にしなくてはならない。また、参加者を一部の出場選手から市民全体にするため、若者から高齢者まで誰もが気軽にスポーツに触れられ、スポーツを始める契機となる大会にしなくてはならない。そのために、どうすれば多くの市民が興味を持って参加及び応援ができる大会になるか検討した。



《目指す方向性のイメージ図》

市民総合体育大会のあり方についての主な提言内容

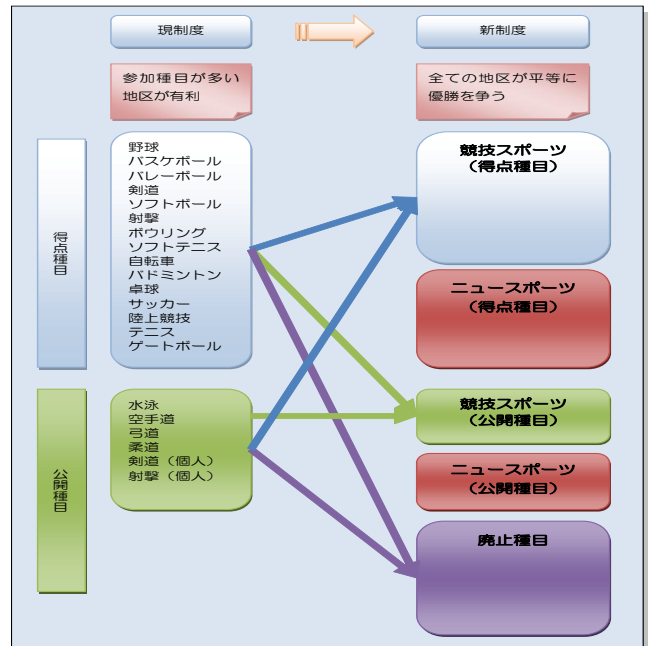
市民総合体育大会をよりよい大会にするため協議、検討した結果、当審議会から次のとおり提言する。

第1章 競技方法について

1. 地域住民の親睦が図れるよう従来どおり 24 地区対抗戦方式とする。
2. 地区対抗戦方式が困難な種目については公開競技での開催や開催の可否についても検討する。

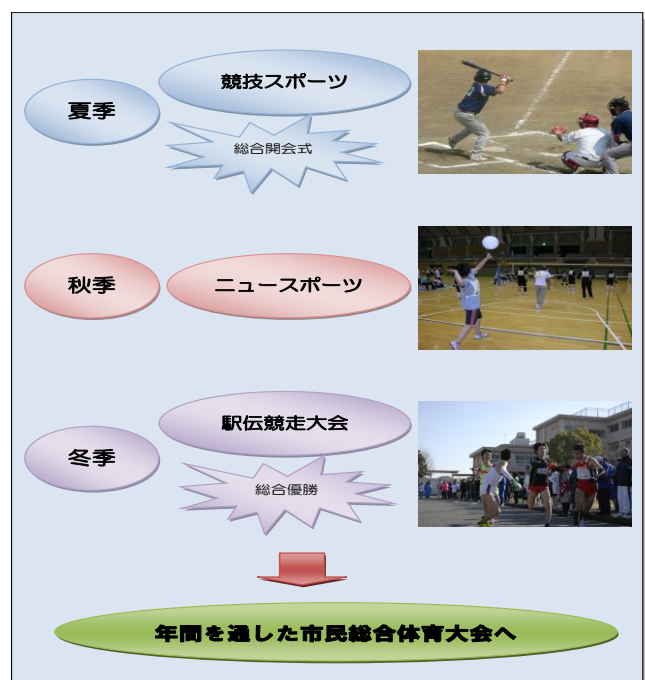
第2章 競技種目について

1. 高齢者や初心者でも参加できるニュースポーツ競技などを導入する。
2. 競技によっては年齢制限を設け、各世代の参加を図る。
3. 得点種目と公開種目の基準を明確にして、全ての地区が公平な競争ができるようにする。
4. 得点競技は得点の計算方法を見直し、多くの地区が公平に優勝争いできるようにする。
5. 体育振興会、体育協会及び自治会との連携を図り参加者の増加を図る。



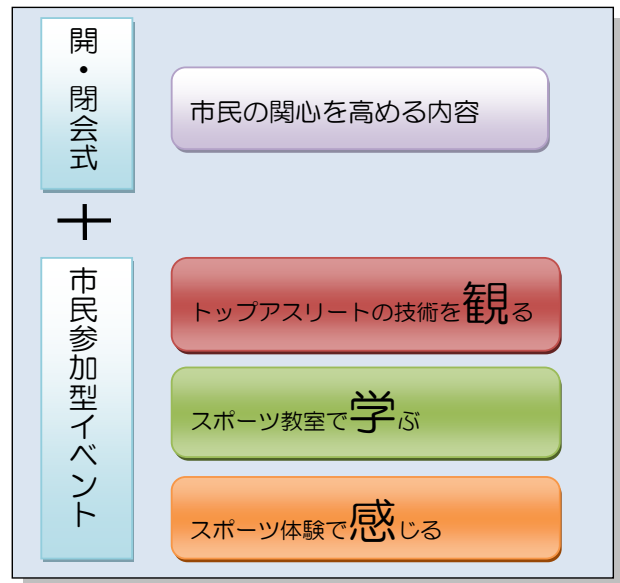
第3章 開催時期について

1. ニュースポーツなど競技種目が増加した場合、関係団体等と協議、調整を行い、分散して開催する。
2. 現在実施している市内駅伝競走大会やトリムバレーボール大会など、地区対抗戦で実施している競技も含めて、年間を通した地区対抗戦として、一層の地域の親睦や団結を図る。



第4章 「市民のスポーツの祭典」としての位置づけについて

1. 競技スポーツ中心から生涯スポーツの振興へとシフトする。
2. 開・閉会式の実施方法を関係団体と十分協議して、多くの市民が参加できるよう改善する。
3. 開・閉会式では、市民が気軽にスポーツに親しめるイベントなどを同時開催し、多くの市民が楽しめる「市民スポーツの祭典」とする。
4. 大会の見直しを積極的に行い、それを反映させる。



第5章 その他の事項について

1. 参加料は徴収しないことが望ましい。しかし、高額なプレー代などが必要な競技は参加料の徴収を慎重に判断する。
2. 出場者が限定される競技（資格や免許が必要な競技）については、開催方法や自己負担、開催の可否について検討する。
3. 市民が参加及び応援したくなるような魅力ある広報活動を行う。また、市民の意見を反映できる体制づくりを行う。
4. 大会名を市民に親しみやすい名称に変更する。

総括～20世紀の競技スポーツから21世紀の生涯スポーツへ～

当審議会で提言書を作成する中で、様々な議論が交わされたが、一番の根幹にある考えは、もっとスポーツの素晴らしさを知ってもらいたいという思いである。全てはこの考えから生まれている。これまでの市民総合体育大会は一部の競技者が楽しむ大会であった。当審議会の理想は市民が参加して一緒にスポーツを楽しめる大会にすることである。競技志向ではなくて、スポーツの楽しさや素晴らしさを再認識し市民にスポーツを再考してもらいたいと願っている。具体的な例を出せば、昔の運動会のような、地域の人たちが集まって、子供も大人も一緒になって、一生懸命スポーツを行い、スポーツを楽しみ、人の温かさに触れ合う。そんなイベントになれば良いと考えている。

全てがこの提言書のとおり実現できない場合もあると思うが、各種スポーツ団体と平塚市教育委員会が十分な議論をして、更に良い市民総合体育大会をつくっていただきたい。市民総合体育大会をつくり上げてきた先人達の思いを受け継ぎ、より市民に愛される市民総合体育大会になることを期待し、また、スポーツがもっと市民に浸透し、身近な存在になるよう願うものである。